

# 環境と安全への取り組み

## 天然ガスの普及拡大を通じて環境に貢献

かけがえのない自然を大切に、環境に調和した資源・エネルギーの利用を通して、地域と地球の環境保全を積極的に推進し社会の持続的発展に貢献すること。この理念に基づいて、東京ガスグループは「環境経営のトップランナー」を目指し、以下の4点を環境方針として地球や地域の環境問題に積極的に取り組んでいます。

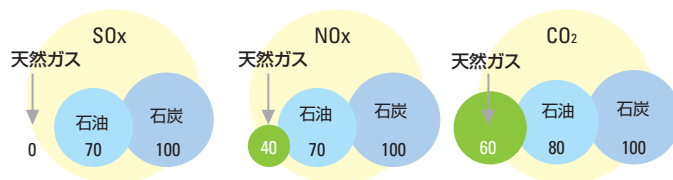
- 1) お客さまのエネルギー利用における環境負荷の低減
- 2) 当社の事業活動における総合的な環境負荷の低減
- 3) 地域や国際社会との環境パートナーシップの強化
- 4) 環境関連技術の研究と開発の推進

また、当社は都市ガスを中心とした事業を推し進めています。その主原料である天然ガスは、燃焼時における硫黄酸化物(SOx)の排出がほとんどなく、窒素酸化物(NOx)や二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量も石油・石炭の40~80%と、一般的な化石燃料の中では最も環境負荷の少ないエネルギーです。

そのため当社の事業は、こうした天然ガスの利点を活かし、ガスコージェネレーションシステムなど高効率で環境負荷の小さいガス機器・システムを開発して普及を図り、より多くのお客さまに天然ガスを利用していただくことが、そのまま地球温暖化や大気汚染の抑制にもつながるとい、非常に恵まれた側面を持っています。

当社では、このような都市ガス事業者ならではの優位性を環境保全に確かに反映させるべく、自社でまとめた「環境保全ガイドライン」の中で、お客さま先におけるCO<sub>2</sub>の排出量を2010年度に800万トン抑制するという数値目標を明示しています。

## 石油を100とした場合の排出量比較



温暖化対策 ガイドライン	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『当社グループの都市ガス事業において、天然ガスの利用促進や、都市ガスを利用した高効率機器・システムの効率向上により、お客さま先でのCO<sub>2</sub>排出量を2010年度に800万トン抑制することを目指す。』</li> <li>2. 『当社グループの事業活動におけるエネルギー使用原単位を、中長期的に年平均1%以上削減することを目指す。』</li> <li>3. 『海外での温室効果ガスの削減・吸収プロジェクトの発掘・技術支援等により、グローバルな視点からの温暖化防止に貢献する。』</li> </ol>
資源循環の推進 ガイドライン	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産業廃棄物分野 産業廃棄物の発生形態として大きく異なる「製造工場(生産拠点)」と「建設廃棄物を含むその他廃棄物」に分類し、各々目標を設定する。 『すべての製造工場において、2010年度にゼロエミッションを達成する。』 『建設廃棄物を含むその他廃棄物の再資源化率を2010年度に91%以上とする。』</li> <li>2. 紙ごみ(紙資源循環)分野 『オフィスにおける紙ごみ発生量を2005年度に対して2010年度に10%削減する。』 『オフィスにおける紙ごみの再資源化率を、2010年度に85%以上とする。』 『コピー用紙の年間一人当たりの使用量を、2010年度に5,000枚とする。』</li> <li>3. 掘削土分野 『東京ガスが発注する道路上の工事から発生する掘削土量を、減量化・再利用・再資源化の推進により、2010年度に15%に抑制する。』</li> </ol>
グリーン 購入ガイド ライン	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電子カタログ購買のグリーン購入率を2010年度に70%以上とする。</li> <li>2. 連結決算対象の関係会社に対し、2010年までに東京ガスの電子カタログ購買のシステムを導入し、グリーン購入の推進を図る。</li> <li>3. 東京ガスグループにおけるグリーン購入推進の手引きに沿ってグリーン購入の推進を図る。</li> </ol>

## 2006年度の目標および実績と2010年度目標

	2006年度目標	2006年度実績	2010年度目標	
温暖化	お客さま先でのCO <sub>2</sub> 抑制量	660万トン	<b>661万トン</b>	800万トン
	ガス製造工場のエネルギー使用原単位(ガス製造量あたり)	1%以上削減	<b>2.4%削減*</b>	1%以上削減
	地域冷暖房のエネルギー使用原単位(熱販売量あたり)	1%以上削減	<b>0.6%削減*</b>	1%以上削減
	東京ガスの事業所等のエネルギー使用原単位(都市ガス販売量あたり)	1%以上削減	<b>6.3%削減*</b>	1%以上削減
資源循環	産業廃棄物(製造工場)	4拠点/10拠点	<b>5拠点/11拠点</b>	10拠点/10拠点
	産業廃棄物の再資源化率(その他拠点)	91%以上	<b>87%</b>	91%以上
	紙ごみの削減率	2%削減	<b>3.9%削減</b>	対05年度10%削減
	紙ごみの再資源化率	85%以上	<b>87%</b>	85%以上
	一人当たりのコピー紙年間使用量	7,400枚	<b>7,180枚</b>	5,000枚
グリーン購入	掘削土の発生比率	19%	<b>19.3%</b>	15%
	グリーン購入率	60%	<b>60%</b>	70%以上
	電子カタログ購買導入済の関係会社数	35社	<b>38社</b>	48社

\*5年度間の年平均削減率(発電所のエネルギー使用原単位削減率については、事業を開始してから5年を経過した2007年度より評価を行う)

## 最先端の防災対策

経済活動や暮らしに欠かすことのできないエネルギーの供給を担う企業として、東京ガスは創業以来、安全に対する責任を強く意識し、それを果たすための対策を様々な形で具体化してきました。

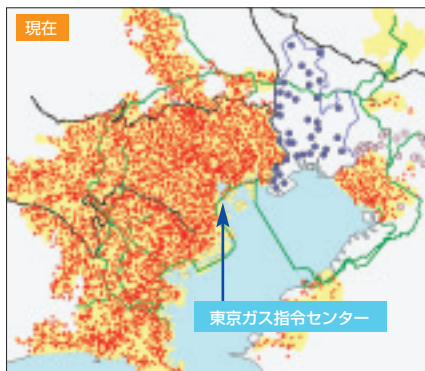
日本は地震の多発地帯であることから、東京ガスでは、ガスの製造・供給に関わる主要設備は、阪神淡路大震災クラスの大地震にも耐えられるようにするなど、高度な安全性を確保しています。

これに加えて、震度5程度以上の揺れを検知した際には、お客さまでマイコンメーターがガスの供給を自動的に遮断。同時に地域全体でも、高密度に配置した約4,000ヵ所におよぶ地震計の情報を防災システム「SUPREME」が瞬時に状況を把握し、大きな被害が想定される地域は二次災害を防止するため、感震自動遮断や遠隔操作で低圧のガス供給を停止するなど、厳重な安全策が施されています。一方、安全のためガス供給を一時停止した際の、早期復旧に向けた体制づくりにも努めてきました。お客さまのご不便を出来るだけ早く解消するよう、関係会社・協力会社を含めた連携を強化しているほか、スピーディな復旧を実現する人員・資機材の整備や訓練など、万全の準備を行っています。

さらに日常的にも保安組織の1つである「ガスライト24」が、ガス漏れなどの緊急時にいつでも出動できる体制を取っており、24時間365日、お客さまの安心・安全を絶え間なく見守っています。



供給指令センター



「SUPREME」  
※赤点は当社の地震計（約4,000ヵ所）



ガスライト24



安全点検

## CO中毒事故の撲滅に向けて

2006年度には、CO中毒事故の防止に向けた今後の安全強化策を発表しました。東京ガスでは、お客さまの安全・安心を第一に考え、以前から機器の不完全燃焼によるCO中毒を未然に防ぐため、不完全燃焼防止装置が装備されていない湯沸器・風呂釜の安全機器への取替えをお勧めしてまいりました。さらに一般のパロマ工業製瞬間湯沸器の事故を契機に、不完全燃焼防止装置が装備されていない湯沸器・風呂釜を所有のお客さまが可能な限り早期に安全機器に取替できるよう、2007年1月からの約3年間で、最大100億円をかけて「安全機器への取替促進キャンペーン」を実施しています。また、2007年4月より安全点検の作業員を順次増員し、100名程度を加えた体制でよりきめ細かい点検活動を行うとともに、お客さまの安全に対する疑問・不安にきちんとお答えする、ガスを安心してお使いいただくためのコミュニケーション活動も充実させます。

お客さまの安全を確保することは、ガス事業者の基本的使命・最重要課題であり、これまでトップマネジメントの統括のもと全社をあげて取り組んでまいりました。東京ガスは、安全機器への取替促進、安全点検の充実・強化にとどまらず、安全向上のための「技術開発」についても積極的に進めていきます。